



第3号
令和8年5月25日
 国際教養科主任
水野豪人

【国際理解の集い】先輩から後輩へ。受け継がれる「言葉」と「志」

5月14日、一日かけて行われた「国際理解の集い」。約2ヶ月半、悩みながら準備を重ねてきた2・3年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

私は皆さんが、不安や緊張を抱えながらも原稿を書き直し、スライドを作り込む姿をずっと見てきました。中にはスマホのメモに頼ろうとしていた人もいましたが、「聞き手を意識し、自分の言葉で伝えなさい」という指導に対し、多くの生徒が素直に耳を傾け、紙のメモに書き直して本番に臨んでくれました。自分の至らなさを認め、即座に修正して最善を尽くせる。その「素直さ」と「努力の姿勢」こそが、皆さんの持つ最も素晴らしい資質です。その結果、当日は海洋プラスチックや人身売買といった難解なテーマに、逃げずに英語で立ち向かう姿を見せてくれました。2年生最優秀の林とわこさん、3年生最優秀の工藤真緒さんを筆頭に、代表者たちの堂々とした質疑応答は素晴らしかったし、胸を張っていいことだと思います。

そして、その背中を目に焼き付けた1年生。先輩たちが示してくれたこの高い壁こそが、来年の皆さんの目標です。優れた実践例から学び、そこを目指して頑張ることは、人生通じて必要なことだと考えています。

千歳高校には3つの学科がありますが、国際教養科の皆さんがこの学びをさらに進化させることで、学校全体の魅力を高める一翼を担ってほしいと願っています。皆さんの「素直な心」と「折れない努力」があれば、必ず実現できるはずです。これからも誇りを持って、共に歩んでいきましょう！

<予選でのプレゼン>



<表彰式>



<決勝でのプレゼン(2年生)>



<決勝でのプレゼン(3年生)>



【台湾・虎尾高級中学とのオンライン交流】1年3組の生徒ががんばりました！ 英語(一部中国語)による国際交流に初チャレンジ！

5月22日、1年3組の生徒が、台湾の国立虎尾高級中学とのオンライン交流会を実施しました。高体連時期と重なり忙しい中でしたが、本校から27名が参加。モニター越しに、海を越えた同世代との対話に挑戦しました。

両校のプレゼンテーションでは、日本のアニメや伝統行事、台湾の文化遺産など、互いの国の魅力を英語で紹介しました。リハーサルではたどたどしかった英語も、本番ではしっかりと準備を重ねた成果が見え、きれいな発音で堂々と伝えようとする皆さんの姿を誇らしく思いました。しかし、今回の交流で最も価値があったのは、Zoomのグループ交流で起きた「ハプニング」への対応ではないでしょうか。

「相手のマイクがオフで聞こえない」と私のところに相談に来た生徒が何人かいました。その時、皆さんに伝えなかったのは、「自分で言わなければ、何も始まらない」ということです。“Turn on the microphone.”という表現がすぐに浮かばなくても、“Mic On, Please!”と必死に伝えればいい。完璧な英語を待つのではなく、「なんとでも伝える」という泥臭い気持ちこそが、異文化の中で生き抜く力になります。自分でできることに自ら対処する。この小さな勇気の積み重ねが、国際交流の醍醐味です。

今回、日本人にとっても台湾人にとっても、英語は母国語ではない「外国語」でした。それでも、共通言語としての英語があったからこそ、私たちは笑顔でつながることができました。「なんのために英語を勉強しているのか」——その答えを、今回の交流で見つけたはずです。この経験をこれからの英語学習のエネルギーに変えて、さらに高みを目指していきましょう！

<校長先生の挨拶で交流がスタート！>



<小グループ交流で親睦を深めました。>



<お互いに文化・歴史を英語でプレゼンしました。>



<笑顔の台湾虎尾高級中学の生徒と先生たち！>

